### 少型テール

3月号



愛にみちた多くの夜の回想

1968

Libertaire Vol., VII. No. 4

無政府主義認

昭和5年3月15日発行第86号

リヘルデール 定価一〇〇円(郵便料

管できますが、それはアナーキスト、リバータリ アンソシアリスト、評議会コミュンニスト、状況 主義者またはその方面の人達が発行するものなら BENI MEMORIAL LIBRARY POB 609

■リベルテール Le Libertaire

■1977年 3 月15日 発行 VoL, WI No. 4

■編集兼発行者 三浦精一

■発行所 東京都練馬区大泉学園町 2190 萩原晋太郎方 リベルテールの会

毎月1回15日発行 振替 東京133830番 三浦精一

. やなれ 判 い の の

たら友

1+ 5

> 0)

家

キいはて族

工 今

1 () 産

202

通遺

睿 権

0

仲 3

<

分

与 は

えよと そ

0) 護

支配

る

0

どう

母

12 た

る

なら答をなるもれ

た。

てけてけを

う う

カコ

こん

する

عے

2

で

作が

著

を

る

0)

る

~

戾し税 不景気 鹿 党 75 各 政 野 T 金 派 有 12 え 頃 () 愚 金 そ 士込 认 命みがもがみ

鬼児の日は玉ぼ本 れ挙 6 中 な . せ 角 馳 る た けさん 12 神 キは

特別

寄

0 U 4 から 儲 加 な

2

戸 コ す W Z VI

莫空人

絵です)

表紙は水田ふうさん提供のべ

ン

0

火

P 民 0 奴け郎 衆 T T 12 \$ 11 D \$ P が立変はり首あ つりなががてが望ななななな なあな い類ないなながなみいいいい がい いいないな な 6

海外

失業の苦し だよ

4

7

モ

P

ゼ

IV

カコ

7

4

4

ある男の

自分

0

時

間……ア

サ

1

巻頭言

目

次

差別 (差 别 を 打 0 は L \$

は

る

あり

日 0 引 2 0 話」を ... Ξ 読 也

بح 本 テ IV パ V 4 古 葉 雅

6

バ ブ

7 IV

V 2

11 1

= 1

0

自らの死体を提供 せ 山 よ

者

と医

学

生は

1 ギ V

モ

8

1

0 ح あ す た 2 れめ 2 4 U 0 はをみ語 る をた 2 2 なぐ だろ T V1 12 25 う 0 たか 0 ? つた 以テわし 打 のは 差 俗妻 夢 語がの で答中 ح は えで い 趙た他 ð 家 0 傑 から 半と に婦

人

きはし

だ 夢

5

7

あ

カンこ は 0 0) 識 B 分子 だ 由 と論 王 0 引つ 言 0) T うこ 子がい 5 ح る 。 で あ 0) 参 っ時 て、 70 中に 誌 五 2 千 2 F 月 年ろ 号 0 L 歴た 史とは בל בל 5 下中 みろれ ばな話 五か文 · っが 四た E 以とう 来かの 0 人 か 解 婦 す 女建び想 動 しが V いあ 2 25 2 そ そか 最 重 うな 要 で う

15 7 席 \_ 判 し月 か浦 た。 のあ 決が和 方面 裁 る 60 み判の 4 年 るは市 tt 新会 学園 東京 東の本は、 あ 屋 < 2 るピ を 2 2 \$ る た 人達 そ 女 で 摸 5 性 は 索 2 活 動 既 舎 魂家に ŧ 胆 から 30 衆が 才の 夫がのみ人代人 え襖 化四 る のな骨 のか下 () 半 社の 会 には 0) \$ 男 各り 立性 っ優 で判 めた位 活決 確に 発ポ レ対 てす てだ る ノわいか よ うっだが 5 支援 し送し 7 3 た o) n

ななな 女と子供がよう 外 すの 立認 よ場めれ る うかなに 羞 恥 と印 女は承法 いョ 5 律 0) 0 16 ス運いはで \$ は ح きの " 非 でいにめて 裁 パ公 認 判 開 のあら \$ れめ 所 性 判所 T 0 0) を 保 楯 + ドにやと る と言 守 かる そ 的 ポ 子うい体 チ 0 N け供だ 質 た T でげを 9 2 確だ 表 表 民 V のかにたり 現 1 7 T 精 人 ~ 考のれわいにニス 力 べがは うな学 ع のだろがが きだろがが L が的 T 5 で 魔 H 認 死ぬとは 本羅のな 核 5 族 よ 遺産は 動家 化 家ばう ポ 0) も娼婦 思 た \$ IV 妻 0 0) 子様の数と子供が と子供が は週刊紙 はだれた る U く若え夫平・動のいかさ

等なポがし

カンノ

男 以 はに

ルが性

り愛

た

に・ん

割

う半や にモ つバガ キとス同 Personal

belongings

コー

ことに と屋君 氏 2 な 村 0 みたい とし と共 れは 話 4 政 資 青 、つまり 料 想的 府 年 主義 て ょ は ic 一九 だっここ 来 と思うと、前書 41 2 書 会 P て、 た 宇し、 6 講 七 件 話 ナ 彼 \$ T 座 一年十 0) + 綿引さん いる。そ 17 のアナキズムの魂 で綿引 が ズ の、現在 找 送ら カュ 4 連動 々に話してくれ クラブの女屋氏、タナト 一月二十三日宇大A 6 さんの話 れ してさら を結ん 12 から て来た。有難う。 生前、 脈動す ある断 そして「栃 でいる。 を取上げさせても 0) 全存在 らに、この る歴史 一あ を、再度とらえ 面ー二人のア た もの りし 木県下に於 人として をも 研主 の一部 小 0 論に ス社 催 ずれ 門第三回 0) T ナキスト アナ 伝えよ 接する かえ であ らうつ 17 引さん 0 \$ 信 る農 貴 L + る 太

のこと ح で お で から 戦前戦后を ح \$ V てクラブの例会にも たと思 T 知 を とり () 5 得 上 から 一貫して な げ カュ であ るの 0 た 闘い続け 彼のア は、ここ る。彼 出席し 2 ナ たのだっ た彼に の交際 に僕 + ズ から つい は A 0

大

T

12 1

触 12

信じて 台 は U 綿引 0 と思うことの \$ を ながら顔を合わせていた 同 7 抜 えし TI 信じ合って ラブ た。そ て、 京 って生きる外はな 手 い 知 志 た人間、 な 0) 0) 2 2 君 で たクラブの でもあ た。星 とも心 でもなく 全 2 の例 な話 今まで知ることのできな られ でな 方 部 だ。決して 会にも 0) から \* だ 方が間 知ること る。これ < かる る 同 生きてゆ 君、あ 0) الا 川さん系でアナー 志 志 通 た ところに ま 表現 た TI 41 つとめ な N 6 違っていることが多 ち 0) 合 ちは 1) 畏 12 れが淋しい人生という でな う、自 書き を のだ。 は到 から 切 5 ば だね、星 たのだった。 年 とう。 ような て出席 ら僕は 3 75 同じよ < 底 ح 5 の通 盟 心できはし いた 僕と綿引君と な ٤ 75 あ **尾**君、人 キスト ってしまっ 君 かった綿引君 は 話 す 6 い合うことは れは良 ō をし 同志 L ることにし な 0) 12 君 は 僕 たことも ヤそ ね。 TI カン な 6 よ」と心 うも らず 3 は 間 41 41 b 間な 2 の間 信じ の他 0 知は 人 0 だ 間 らな た。だ 知 0) 」と思 0) 知 0) \$ 6 初 はそうだ だろう。 だ。 って なく、 な T 0) 5 他 星 だ、 生きて 多くの 6 なく の半 君 から 12 る。 だと 信 君 41 2 響 בנד 2 Ü る 面 T 面 1Hi T いつら

うこ \* 岩佐 わ カン 7 15 12 0) 長くい 6 E n TI 帰 # 0 言 L そ さん にな で カコ 2 ても、日本人のその頃の大部分の労働者にと カン とも、僕ら 0 1 V ま てきた時・ 実現することであ いて 個人の 2 す。これは戦前は勿論、戦後 T う。 中 B た。 う 6 て、その間に 死んだ人が一人も が良く 0 ٤ るん て自 \$ 6 ます だ n 2 ば だかまる 岩佐 題 から革命とはこうやっ にとっては何 . 目 言 曲 7 ・僕だってそ 会 己とい っそう 0) から 考え って とか くる 連 世界革 た。 一方石川 日 さんの 由と平 平等と V から 0) な 本人 1) うもの、 いうことを考えてみ たが っきりわか 2 命 い 2 12 です。これ 一等につい は P は b TI の苦 0) カュ W はりこれ どう 妻をつか v. 0 中 日本人とし カン うことも、石川 0 きり 目 12 た考えが入って 悩は 7 2 25年 らない。 裏付 さんも て日本 分 L 3 0 て考え 15 てこうなん 長 ・・彼はア る から 1+ た 1+ 包 50年 望し W な社 った今日 しような 0フランス され て目由 12 n で自 たくさ 会革命 る た。そ 1+ あ ば 自 ع さん る T 由 15 曲 Ш だと言 と平等 ば 切 6 21 ٤ 2 話 と平 V x 来 7 て何 リカ 世 でし の言 たが 明治 ま な カン 5 P 行 0) ~ 紀 亚 L で 5 等

> こと、自分 る 0) 身のことが一番問題 で考えなけ でや T なら である。 75 い とい ならな うこ بح で

自身がそ 12 うことを否 12 3 衰退 が 分の そして一 大震災、その るならば、たしかにそうい -の一途をたどった」と 焼失、大杉 の渦中にあったから、どちら 放運動」の 定したい ために や朝鮮 気持があるわけですが、まあ客観 中 0) 12 下 W 人  $\neg$ 町 わ P にあ ゆる たちの虐殺、そ 書い ナ系の うことです。 アナボ 2 7 た労働組 V 運動はあの るが、「 かという して山崎 合 1\_ の基盤 とそう 僕は自 震災 4 の大 翌年 を 的 V 分 境 朝

への行 を鵜吞み V 力 T 2 V ボ カコ なお互 ていな 石川 IJ 力 ルシ き方に対 パリズムに 「たまたまそ ェヴ 12 Ξ ムというも を労働 L い V てでき ムと 郎さ の自 0 1 なぜ 2 L + 組 主 W ・派の勃興、アナーキスト陣営の中の て、「僕らは たも うも と延 のが n 的 なら目由連合という て触れてい を裏付 な結びつきとい 是島英一君 そこに 中 0) 0) で・ は 10 入 1+ フラン るが n . 出 てくれ そう ては から てき P 6 ボルの ス た うよう 治 2 た 2 たん のであ のは、 た考え 1+ 的 \$ 経済 アミア 0 だが 労働者 とし U な恰好であ ただゆる 方を 2 なそう ・そ た。こ T 独裁 サ 何 y \$ サ

いジ らな 3 こと 会に カリストと うと無政 ٤ だがこのズレに 12 V が石 政 7 附主義は 綿引 しま 治 JII 75 さん す。 」という問 う。政 君 から たちとの考え方とにズレが示され 入らなくな で 1+ ですよっ 綿引君のこの考え方に反対だ ついて延島君はどう考えていたか す かしよく考えてみるとそ 冶 カコ 上とい 5 題のとらえ 演 ってしまうわけ うことで規 説会をや 万で、 なん 0 当 T 制 されてし で N 時 \$ 703 のサ す。 も社 な器用 政談 2 7 た 会 演 V

に対しての反省であとは考えられない。 知 が所 あ اد 大杉に近 2 自 たと思われ ての反省であったはずだ。 分で進んで組合に顔を出 よ かり難 る。 בכל 労働組合運動が 2 たことも書 L た岩佐老人への親近いているが、こうし 政治連動化すること への親近 た 感

とを述 は 陸 ボ IV L 系の おけ て、 ~ 」と誓 る帝国 山口健 労働者 左 目 殿と連 由連 人のことばだと思うのです。 W 合派の 主義戦 独成が ているのを引用して、それは「自 助君が「風雪を越えて」の 動の 連動 前 8 争の進行と独占資本、ファ「風雪を越えて」の中に「 人 一つの過程として説 A 途に絶望し、 つぎつぎに カミ 切りくずされ つぶし 戦線から脱落し 消長はあ T T カン 行れ 行 「だが た 0 2 た シズ 我を たこ こと

> うも うの 2 としてとらえている。」 ならないとい 分が生きてい です。これは仕方のないことだと思うんです。 0 です。『絶望』ということは で やろうと思ってもどうしてもできない時だってあ は 絶望』ということは、全く違うの きなくとも、 V わけで う欲求の発現は る限り自分自身の魂という す。僕ら目身はどこま いつかどうし P 1) 82 の中には『革命 てもするん カン ね ではない か、し ば でい ならない だとい っても なく かと思 2 5 うこ 僕は Ð 0) P B い

っいぐたろっ れとがし 越えてなども書きはしな ろな 出口君にしても、当時の事情をこれが綿引君の立派な「自己の T 生 綿引君が を 笑 1) ての カン 表現できないようなも つら ニュア 2 喜劇となったりするのが人生だ。悲劇や喜劇は T • おたが 幕とも とらえたような「絶望」だったら、 < V 思想の ス 0) なるだろうが V 違い 0) 切 4 () かっ 題もそうは行 収 V うものがあっ り方、受けとり方に、いろ ただろう。一つの言葉をめ のがあったのだろうし を思い合わせれ 把握」だ。 人生はそうは行かない。 カン 75 て い 0) だ。 悲劇と ば 風雪を 泣 75

水沼君は北浦千太郎と共に共産党の大学に入ったが、い者たちがいた。昨年暮に死んだ水冶熊君もその一人で、ロシア革命が起った後、日本から潜入して行った労働

と水 いそ 言え 招 話 君 帰 水 な る は 2 だろう。 綿引 \$ 君の言う た 人間 三年 は V る あ 自我の 2 在 2 学 な 0) L 12 個人 でき T \$ n 0 思想 な る 2 V V \$ \* \$ 12 9 身 0 ボ カン V 12 を IV つけち 12 言 は 2 T な us it 5 い た た な

る てかのろのアにた 連 T 12 3 から P ナ 最 人た 綿引 な B 至 おれ 中 ナ 1 \$ の期待され、 土った。吉 た い \$ 本 1 + 君 もつい 。占 0 スト + は ス Ш 正進会や信 吉 田君も 鹿君 田田 ٢ 12 紹介 田 2 のボ 優遇され 君 0 た 字も 君の 気に ついい され、 は 5 N 最後 友会 化 0) ロク ح な 12 労 0) (綿引君 働連動 7 に読め ま 2 -1 使命を帯びて 説得されてポ 12 てアナ 君 は ボ n 偉 社 N TI T たち の連 に転 1 2 V いる いんだから + たんだ」と白状 吉 の印刷 かになった スト 中も 帰国し 田君は 日本 たち の一向に耳 工の組合) た。とこ本 と言わ V カン と交流 5 V 1 アニ行 すれを 人ンっ

4 吉 \$ 田 君 0 0) 本 2 T 当 の話 こし のこ いることでも、 0 8 とは 5 L えな ま て綿 た わ からない 引 自分の ٤ 君は 案外自分のも D 結ぶ。「僕は大事 r 頭 かも知れな で 2 なく、 と自 0) 分 で W では自分 な 0 から 治自 בנל < 75 分自 は、 人借 0 \$ 0) 1)

> に偉そう は に寄 が過 大 切 + ぎて 0 0 なことでは ズム なこ た 自分 1) () の根本 L とは言え て今 のこ TI となる大切な H 2 U ること ない まで だろう 考え を考えて見 のだが 生きて から る カン 2 ٤ 6 V 元ると、右 思うの 41 という う でも るの 2 だ ことで P C から に寄 す。こ 2 ば ます 、そん し、こ 5 2 たり、世 は非 5 n TI

で行 から るだろうか 5 てし 「ア自ナ あ う疑問があり、また吉田君がボ 1) 2 た悲哀がある。秋風落莫の世界でア 分 か生きられない者、君たちはそん 水沼 で考えること 君が 人 間はこんなに \_ · ここと 綿引君のアナーなことだと思いた 変れる IV 陣営に な人間 \$ も行けず死 ナーキス 0) だ であ ろう 1 + 1 ズ 1) 202 ع 2 حے 4



ARTHUR MOYSE\_THE DIFFERENTIAL

加机 本 カン 0) 研 会 手 雑 1 45 0) 773 ナ 誌 1 から はトか 1 十ト刊はり 1 誌 L 14 TI 8 1 emp 打 され F 得ら K 4 学院法学』 重 れるよ 二 た 泉 0 V 太郎 あ 0 る 0) うに思 手 本 0) 生涯 の第 唯最 10 7 版 取近手にした! いこれを と著 九巻第二号通 5 述 によ う 七記 す 一年 0) 0 卷 学な 十だて 第 יט טי 三大た 月

宮健 七二 砂 一年には 一年には したとはは 言 知 11 12 8 1) よる 引 合 才 42 V2 で と城泉 同 年てで いあ 義 3 2 塾 太郎 ゴがたら 0) 教 氏 0) L 員 に採用 V 。さて さ義 れ塾 2 0) たに だという。 研 究 1

[1] 3 テ 11 多 少 カ 7 互 N 1 バ ラ ス 献 等ナ 感化 明 ザ 2 強 殺 治 IV ブ 7 ス ヲ受 七 ス ~ IJ 1 + 理 相 テ カ 5 余 V ナ 違 テ 7 は IJ 3 1 施力 圧政 胞 有 尚且平等 カ ス プル 1 ノ等 主 1 最弱 の中 ラ 義 2 の元 1 7 差 V 說 ヨテ ナ ボ リ精 ク故 ル祖シ ン D 人 7 から ッ E 神 本 二平 一層 ブ能 Ľ 7 1 ッ 雖プズム 僅 力 1 二其が一 ハ主哲少

> 治 九 年 V 事 7 ソニ ス Ħ テ 工 P~ V IJ ドニ余 1 一向テミルノ土地共気ボハ之ヨ千古ノ金言と 问 + P V - 1 ス テ 1 人 カ " 1 選 V 挙 3 X V しノ 論 ヲ 有 中 テ賞 説 V 章 4

しルた理 で 0) 我 大 文 玉 (C 1) IJ に勤王 明史を は 新 と絶 から 書 A ン 菆 聞 同 2 ~ は 明 = 教 明 治 主義、 \$ 読 1 12 就 五. る 0 治 工主義を \$ 師 0) 中吾 五 コ 六 せ 飲 3 之を とし き原理 迎 . V 凋 年 年る Œ 入 14 落 0) 14 英 せ P 2 n 人 究殊 投 排 折 玉 3 1 本 T せ 0) 12 斥 はで 書 学 る プ 甚 1 9 A 韓 し動 シはプレ 生 は 12 論 IV 深 1 其第二卷 コスま الم 畢 0 を 1 1 のマモ 一党此 1 此 L 王 民 実行 感 ス ソソヤ 一ほど馬 約 モの 1 ヌた 0) 12 V 動 ハが非 0) 論 会 2 す T 8 アッの 8 にス 与のシボロ是 動 勤 12 あ 台 [17] ~ 主 員 鹿 土 3 ヘコアシッれ 王 0) () げペ喜 主主 クと 12 理 ま た 1 IJ F るは トズビヤ 前 義義 L 1 6 た 会 由 華 白 F. ムズ Ł 後を 0) \$ ン次 族 2 た を 文明 P . 4 講 中 0) 変じ L 2 は 独 産 C 1 T 演 は だなをッ ム哲 ま 大逸あ L L 我 11 賛 又当 7 盗 派 学 云 なた ラり 4 L 成ッまの方当 々スレル 是 奪 は 法 T べての 男大よ ナ

のすす言の下とけりラ 氏 名る いも ~ 典 を TI 3 0 0) は 5 ille せ 知 5 資 つでこ もあの 章 T = 明 る が会 治と評 わかつあがらのり 2 全 文 年 Ek 価 に面を 0 お的 \$ L 和 寸 九 12 含 主義 る w it T 年の る。 は 8 る プ 社 信頼 たル を 頼す 間 盎 会 1 には しこ 主 究 O 義 ベの 2 L 城 0) 思 き回 ま たよう を 氏はつ か想 引 L ナ た VI プの 容 かは なも T 文 史 5 IV る Un フ の語 1 を る 上なか F. 信 注 い後 をハ ン頼目と年山 設あ

PV 初、出ク 五 で 0) る 0) ロュ IJ 古 ブ ズ氏因ルっぱ料 う初 示 ポ 1 1 1 4 0) 12 1 L キピーコ - F U よ T 一 社 明ンた いンア 0 \_ 治 12 プ る 18 会 N がマ「リ文文つとよりて -1 ドルクウ コ年全てか ※ 果 知 で あ は 社 ナ スエン表集知 × 1 0 F \_ ソミ 業 名 2 V 会篇 ははに フン V 日記 関 1 0) る 本し L IJ 記 2 に最 3 T 緑 \$ IC T 工事 いはし 伝 そっ わな ズれ例 2 いのバト T 文ク 1 ムては い思 献ーマーい以 たう 上ニスつる上

V 曲排 され プ IV た。こ 政 F\* \$ V 早 n 0) すい例の一つ 一福 音 全 書 つであろうかと 用いた和装本で 評 註  $\neg$ 一名 聖 あ 経 思 b る 駁

> 遇 つ義 ブ T 者 加 年 知 0 を ょ わ 6 1 0) 一 っ 人 て V 記 れ 芋 7 念 T 2 とし いし あ 6 は は 3 な T ح た うて 出 し 0) U < テ 民新 彼 考 O L 言 の翻 えら たと かる 葉に B 本 聞 訳 いう六 明治 とは n 12 よ は今 等 於て 2 T 盗 | 枚一組 プル 閑 三八 H B to にた付 本 华 1 0) され 平平 T F. 0) 人 一月 TI \$ 絵 ン A () てき初ガ 少 民にの るなき 新 は いた 期 + 聞 比 0) あ O 例 社 12 li-で る 2 会はの 的 あ V 主 彼 る

使 え 崎 坦氏 こ の 翻 こと 九四 プ 八 \_ 10 IV \_ 訳 郎氏 著作 であ 0 年 あ は 0 1 つい掲 るに F\* 『哲学 クー が 載され 3 刊 集 T 2 か訳した時、一緒に知つう。これはマルクス とし 行され して 0 IV 福村 ている 訳 て社会主義著 0 あ ~ 貧困 で今 た。古書店 る 」 (岩波新 O プル 0) 一芸術 B 6 クス \$ 瀾 1 の原理 2 1/E 訳 瞢 簡単 外 4. 歩く 刊され の『哲 ~ V  $\overline{\phantom{a}}$ に手に 0) 0) 0) 会たかも ٤ ナ \$ お 付 からの 1 時 IV 0) 録 で O 一入 K ウ で貧あ困 7 文 1. 珍 2 4 まも 1 庫 2 L 0) \$ る を 社 0) V IV 0) 会べば坂 見 書 \$ 7 高 る \$ 0)

#### 山健一

記く接あきけしら近てなて らか L ない B 昨 いる 7 L 年 少 資料を た 76 L 録 づつつ 当 力 < V を と思 分 入手手 来日 7 は われ 彼が ま 0 0) 7 省 を 2 5 横浜で L 5 料 立証する日本側資料に 85 0) たの 3 (存 そ 7 前 で 在 滞 n 1 掲書 しな 在し = V 2 後 た横浜 0) < ~ \$ 6 拙稿 重要 カン 少 \$ L な なこと を発 L 本 づ カン は n テ 0 で まだ到 バク 表 な N を 10 査 L V 1 た後 焦 から 達 ~ 点 2 5 12 V 2 7 づ

2 を ح 名 4 N であ で <u>\_\_\_</u> とバ 6 今 7 7 者 文 名 テ 字 3 ホ あ ま Ü テ で で 2 = V そル 玉 た 2 ず から 書 n 哭 礌 0) から P 6 L カン て、こ 主人 \$ た \$ T 僙 V Ł 看 L 洪 あ る ホ で投宿 酒 0) n た テ 奴 た 0) から 5 0) N から 出 75 。 正 ホ がサと 甲甲 身 3 7 U 地 0 5 1 Iri 0) テ L 2 たホ T E -PN 0) パ 式 名 1 名 7 で 1 12 い ス テ 3 から あ F は 前 袮 V ニン ح あ る 12 鉄 7 4 はル TI 2 7 0) る 2 板 ホ 2 2 2 ヘハは 名 2 は ~ 1 オ テ 前 T V ラ ルは 泊 あ בכל 5 IV 横浜 3 5 所 た + V V . とい で 4 ダパ 家 ح 地、 0) 0) 1 本 定 号 5 こ地 テ ま 0 V

> T はし 木 \$ スト てく 彩 U カュ < TI . 5 () C た サ 著 で 0) クー 1 名 ウ TI る 宿 岩が ニン 1 学者 記 61 术 0) た からバ 1 IJ E 槁 0) 12 子 1 7 本 1 樀 で フ 0) 5 = ンの る。 I TI > V 目 を記 **学者** を二つ出 官ア が他 テル 12 12

テ 面 n 2 中 0) 10 で た たサ とも 類似 IV B な あ T サ は T 容 る 名 C + P 5 L L 時 V 2 は 易 で 1 あ る ウ 15 T to あ 202 ない よう 6 2 3 :2 + 2 W 1) 12 五 ウ から 争。 الم 帰 2 0) 推 は 横 0 7 た シ 記述を た とい = 0) だ 5 定 浜 い < V VI す でき 者 木 T T カミ から かか う。 玉 うこ た 4 主 0 は あ 1 テ 補足して で 同 人もそ 3 ボ 秋 IV 現 3 原氏 0 U ح 在 から 者で 佰 1 サ 哭 IV てあ 3 别 3 L サ 1 登 どそ ウは あ 1 n 0) そ 12 場 P おくと、 資料 B 0) 照会したとこ 6 ウ を 1 2 す たが、これ n 大 ラン 他 4 75 0) 0) 潢 6 2 4 一年 浜 Ħ 773 4 0) 刊 3 来 サ は 日 B プ 5 でそ 本 12 一月 الد 記 削 テ 見 螼 1 \$ 者 ホ IV T 夢 テ A ウ 0 0) 12 \$ 15 5 七、 N 0) から 日 何 う バ ~ 中 L さに ホテ 横浜 7 カン 10 0) 門 H \_ 終 1 75 75 カシ カン 华 記によ Tix 限 N 本 七 紹 ZÓS 2 早 = () 俊 2 蚁 た はなる場 テ 書 V 長 B 介 N 0) 3 きっがくす連

英語)とあ 0) 1 2 ニンと 逸 から 4 見 明 氏の 再 6 V 著 בנל る 1 会 こと する 12 术 書 L IV 12 一言 T 1 0 とは矛盾 は 0) W 著 南 る L 0) 書 北 T しな にハ 戦 で お < 参 争以前である ٤ 照 1 V ネー 3 が、その理 n ハイ 大佐 た V 木 o L 一(ここだ 加 曲は カン 前 L で ` 2 記 バ 1+ 0

われらのバクーニン」

A 5 版·214頁·定価800円

申込みはリベルテールの会宛

# 医者と医学生は自らの死体を提供せよ

ハギシ

V

サ いこ な V 2 0) 体 を ンて 握 とも た いる の腐 n め、どこの 剖 TI ま を 過 敗 0 実 た V 多く 堕落は、 깔 カン 久 ~体献 L 6 L は 医 15 い 身 納 大け Ħ 0 会が 代 よ で n IJ 14 0 \$ ガリ亡者の籔が続生 ば ば 議士同様、金を積まな のない 一人 死 れ あちこちに 体 ること久しく、改 を 老人 前 かき集める 0 た。 組 医 織さ 者 そ 12 n 0 0 な す ている るけれ 12 n る 2 躍 な 3 ばれ V

> がことわ た。その 大逆 書 遺体寄付の貴重さを説きながら、特権階級意識の故 も拒絶した事実。などを中心に書 順天堂 す 2 心 実。虐殺され 5 す てくれ の二月 の医者 事 8 氏 で私 にす った。医術 後、白菊会の趣意 刑 た、友人 とい 死者 もま すめら 本と も医学生も目らの遺体寄付は拒んで の解 われ な た小林多喜二の解剖 加入した。理事長 2 12 の厚見が胃癌 向 剖を東大病院に頼んだが拒 て、送ったことがあ て、解剖 て杉藤二郎氏が 上の ため 書を書 泰治 学教室 0 氏 解 で死んだ。私 いてくれ、と頼まれ いたのだが、没にさ は 部実習の から、会 加入 を、どこの にぶら下 され る。堺利彦が 重要性 報 0 大学 絶され 杉藤氏 とは いる اك T 原稿 b 3 0 か、 ٤, 小 る 病 学 TE n 院 TC を 0)

らな 体寄付 よく 大 2 見 に勤 中学 カコ 12 る 2 つい めて の同 た。そして い V て話し 奴だった。だ いた。エリ 窓であった。彼は東大医学部を出 で灰 になっ 彼は大学病院 たが、 1 彼は「人 が昨春 た。 トぶらぬ野人 0) ーしょに 生観 フ オル で、人 0 一呑んだ時 相 7 リン槽 違だ て、東医 0 槽には 面 • 倒 を

学生に送る。 先ず槐より始めよ。この言葉を私は改めて、医者と医

## る男の自分の時間

アーサー・モイジ

良 な 国と P 5 1 TI 国 機械 () 12 12 なっ 、農民 産 農民は てそ を n 家 75 共 ょ 畜 訪 12 1) とれ L 暮てす \$ なけ なお O n 2 E ば E い国 なら 生存 い は 暮なく 主人 かり 5 な は ナ 2 不 D た 在 V 0) 9 0 I 1] 举

0) 0) 2 # 生所 あ 不 T 存 7 で 幸 \$ 3 衆 な運 に短 B 0) 遁 放 変 < 臘 n 由 L 7 くみじめ は、エリきたり を 命 よ で うてがし れも が L 7 た そ な 6 な ま 場 P す あ T \$ 季 ーつ して 生活、 れか P () 0) は 軍 鉱 節 法 死だけ た。 で 0) 呉 山 0) 理 そ 隊 だ。 n プ 週ロ 給 お祭 抜 n 0) が る 単 冷 だ 1+ 幾 V で やり 0) 加 調 道 が、つま あわ タリア だ。労 な仕 と共 者 から 毎 P 调 12 あ カン をどう れ 事 な は 0 12 りは の男 た。 働 海 3 ح 1 快 出 ٤ 者 0 1 適 そ 心 産 D) 12 地 達 自 階 2 田 5 れ級 のは 婦 カコ 舎 12 曲 が兵古 人生 は な 彼 I O 0) 2 がの 男にとき刑 3 よ 制 0 て以 <

なはげ不貧か 4 L 同 で 玉 情 3 5 カミ IE. 玉 カコ 玉 0) 1) 12 プ 困 12 L た ま ナ 12 東 当 幸 な 心 東洋 で旅 った な  $\pm$ 官 方 化 0) . 成 を 3 中病 《立させている諸外地・喜んで自分の主官であろうと兵士だろうと、 彼等がもつようになっただろうと考えるか V え 0 T 者 で で V 人は事情 失った領 気、 人を 0 だ を で そ タリ 加 75 結局 でリア 生ま 4+ P 0 0 の飢地域 侮 た 軍 が蔑 P え そ 中 そ す 蔑 站 -1 0) 隊 n のは などを に入 、そ 仲 玉 土 7 5 る す 西 0) r で ح 一で学ん 住 う 間 あ 12 人な \$ 3 欧 は 目己の狭 なら 、隊した は水兵 ح 民 大衆 カミ 0 る n 0) 0) とだ 実地 男女の 自分 らは ん東だ洋 を侮 で だ U . L は 12 から あ 狭い生 なく、 、これ 1) や兵 \$ 度 0) 女 2 カン カュ 理 P 属する教 性と L のと全 する の人 生活 \$ た 5 。 征服 学 そ 压 有 ことだ を見聞 B 活 がら、その一般 達は 5 旗 12 は N スタイ L 欧本 何 < だ 12 同じ 2 た 0) \$ X 奉 す 0) \$ 者 生命 学ん するこ を越 軍 軍 は 0 B 仕 仕 0) 0) る 0) 0) た 見 欧 VI 0) N 知 事 す ح 最近の弁護の分別を つだ すら え Ł \$ n 聞 で る 0) からが諸 中 な 0) たつ 捧 は 2 6

かし今では米国が自分の領域に引こもり、英国、ス

者はビづれいも るれた のけこ う 2 12 今 侮 ば 75 んこ 比 で 圃 T 萬 75 日ベ は U 2 はら 面 T 33 て目が る来 で そ TI ないもの、東洋( たとえ西欧の) たとえ西欧の) たとえ西欧の) (である。東洋人) 分世 帝 も違・界の 防衛の水 12 立. 12 万 し準 教 そ から 0) 労働 0 よがえ人れ 西欧 労 う引た 0) を 働 者 失 がき 奇 者 は 0 0 がないのを で、英国 で、英国 階級は 生活 労 働 者 水 12 生活 階 準対も のると が 知 す 級 75 L 2 てっ東労だた洋働 労 事し のが 低 持 実 T 経 1 5 の者 \$ P 済 いなつきし 階テちに1っづな 労 ŧ 働級レつ流と

者らブ対の れ口比だ私 V 12 から は • 子は 口無そ 4 1 2 ブに気うりっこ本 がや IJ 塩 力なアて 0) 0) コーレ 問 " を 0 労 た カン 題 働 + を力気階 者階 は 1) ス 0) は 判 で 込 トは 毎断は 、級一の 12 0) 1. 日で むを 1 P1 ' \* つ生の活 T 12 うるツ世な か人界いの vs ts 0 工水 評 5 P 最 カン たと言 論 だ日 低 5 業準 がと ので国にいい、 本 の現 言 生あ 人 は関 活水 う る別連をだ わ b 4 違 ODL n n 今、 る 準だ I 6 b P 0) だ は 業 2 英国け 大 ンだ な 英帝 n 国 と書 ソ ま 教 ニレけえののく

とつれ 生味がのののの 者 か 情 の私 水 ح 12 \$ 3 階をで、 ٤ わ活を同 でーで 空 よ生 は準 悪 0) 本 じしれを問胞は部は 腹 る活 知がく は 12 は うのなでな 12 0) の 適 の 水 らあも私 めの男くあくむ理 答当 で 準ながな 12 ス てで女、るおけ解はなは自あは同の腹てを、仕な る方 は W 2 ら言 工 7 順 O たなわ 1 から り、志を一、と右の空諸示杯わり派 右 事い次 0 . 私 由 2 いせデ ろスの とのあ 0 いがるン 生腹君すにれつやし だが 5 とは 知 域活 でのすわけ左 T O るる 2 から B 0 をの 満 るれな派はア から Ł と本英 七 () のけのどナ、 押仕たの。 ح 3 の国 0 T 九 で し方さ為決と あれ活 うしそろ あ 労 C 0) 力わひがれのしはりは動なれる問て闘て、きな家 すキれ る 働 7 プ日 は 6 は 0 者 口本 英 . そはレは げ題 国 るにらに腹福 世界のとう。こう 世 n 一夕九 は もな自参一で í) が〇 0) U 0) 4 リ 九な の真⊗アであ 出さのり己加杯 U 充 歌 ح 杉 () Da のしを実 つ世 言 さな を 5 ま きゃの充生よ L 聞 界 5 DI あ カン 1 3 す だいの者 Ŏ 虚 上 労ろう競 偽生か活 階 2 良 で う事 争 級 < のあ

1 3 `れはイなニ 1 スー テは釈タし月50 放りの八名連 のCにアま日が合〇 容Nな人ゝ証政へ日 疑 T っを裁拠策 をのた含判不談Aル か 12 が むに + 議 It 1+ 1残11か分で~ ら 13 り 名けで集 れ名はのら釈 4 拷名拘アれ放中働 問 の留ナてさに \* x 曲 しいれ 態 \* 妥 2 U キるたわ連ン 。がれ合 けバマス ニモ T 1 F. 1 逮 -が月の捕 C いが 1] 1 未 3 N る 1 逮 一他 だ 捕〇 2 1. T はれ 0) 12 B 0) 2 4 2 拘同れ、だ 0) P 2 留 志 ' 2 に 23 メナ でさに6名罪名ン1

」す個翻に準分あれよ名の名はバキ☆ 人訳 備 希 をキ 3 ま 12.0 3 ス T . ト但出出た入下 者会 一連し席版 そっ. 復 動 出をのの \$ 4 TA A せ組活 月 と席希た 書 0 ~ 織祭前活希望め類 会 玉 す 昌 表ろんに動 望 で は 際 立は分提に者るあ 開はア す言日出つは向る会会ナ Vi . 前議 うま る す 3 0) Λでる て各は会一にキ は諸にこ 員ヶあ 出 ス 氏 考問 4 政 身 才 で月 てト 題名 治国 ブなにて連 らがとオ的にザい必書 合 れ国 住 プ経おし 連 着 類 所ザ浴けバ合のをは 75 際 1 3 こ提第 小化 をし的る 4 2 す 組パ社各とグ 出 3 織と る 会自しル す回 時委し的のてしこる大 7 会 いはうの

Fr

公 6 業 调の 間苦

長す自 あ種 いれ分そのス過 ・ 間ので 2 七 7 ン業 五はがむ事料き はタ 紹 15 T だ + 1 1 便就 こ所けひて 簡 nn < と帰など 調 所 を通 除いいべのし 71 る収たた 人人も (0 (0 3) 納が ス どだだ箱結仕ト 年ん 。がが果事 のな目 \*あはをン 経仕分仕り 憂 見 験事の事 うつン をが欠は数 つけに あ陥ど百なるあ するでれ枚も つる かもものの もセ な飢力で () IV いえし あ 7 7 0) 4 1 3 2 + にれをたの

る 5 12 县

1. 〇求を給会 〇大あ 円 体 2 调 B 水 る給ン 1. -七約 週九二 + ポぐ五 7 5 O 円 -1 ボ 2

働 か督」約強し給 よーな 六 る と三 + 屋 給 20円 调 給 术 FU V -۴ 約 0 -三

-12-

0 .

. . 便冗補ス、 屋め監レ給 で人方ペ六こ約 きがはン円 あ雄 る儀 社 意 志 31 堅 固 75 人

. 。めな々むむ円労 ~ 晉 V + . V 迩 ンり ガが 樍 0 3 # 0) 文

級五 ア に () 今 事 字 と万调あの っ人がり読求時求求〇む六料者求仕給引 キての最 は失悪调る 最業だ給人利談助プ日者 はは低者っ45、 夢 求 賃 が た ポ ガ 金でのンラ運し者に二健て35 とたかドス転た 環とも、拭が求当 境言知残き でっれ業 人てなあ排 いいり水 2 傭 る U 政 う い好 と府 機すっ だれ英 。は国 収 奪は

7 つに ili を 0 壊 T L V 0) 最 \$ カン 暴 ? 力ぼ < 的 (0 2)

題とあ際 0 でるに 4 I は け特 V) 12 5 な処で 悩女な みで < か生 T ら涯 はを結 救通 婚 わしし れたて るいお の女き だは すな 3 マい ny ガム U 真を う 劍 使 2 なう ح 問こで

んうやうなあ 女でか離 家 る カュ ? 庭 I 婚 X 者はを E う 夫と の選 n ち 程 早 んば回 多 目 ま < 加 とは若の女た 0) 接いい結性 そ若 く人触け女婚にれいの マ 18 に の な 性 を 偏 が女 あいが楽見 -の初しを時がか 女だめんも的 6 てで たな特 5 のいなもにれ 者か仲る くの女は 間の 75 7 子 とで っあ 学 のは to る 牛 的 2 経な がな 験い 未 4 決 だ定 をだ 亡 7 積 ろ 人 ろ 的

婦プ女とに

性

子がろ

Ξ

い年か

デうく

亦 - 独

名は略て老か然取

うだ

ょ

Ŧ 4

IV

0)

ア自

ゼ曲

未の

一持年令不で

には

TI 彼 者 T

てぼ人ル

0 8

離のて訳供第

-

達子いく

盟方っ達未知いり女

婚 つう

子婚母いだ達

る

0)

12

婚

を

既

婚

ti いニ E

をの年の織

3

マ

4

フ

ス

OI

思

3

2 E

わがげ

() あな

00

5 M

7

不

ろなるい

ム男

y TI

° だ

ッ身う議

W

~ 愛だ身が

婚力独ろ思

と性組ル

う女

くらな

らいる

失社の

う会だ

はだれ

な世居

い界の

本失態

全住

の状

0)

P

よと

う同

15

\$

は

は現

50

の悪 7

何

当 業が

5ク何よい

モな連

マに者悪

W 4

> デ \$

7 い帯

IJ

1 0) L

記だ

()

チでセいでれ性 彼は選 to 1 0 1 くルだ 女女举性 が性人 モマー 3 解 かダわう成もに放をすは最もれな 言ら ま ムたか人男関 とし ? に子心闘 えれわ V はるな呼の敬達との士で 4 がいび妹けし同あ なン 702 んたじる 守記 ろけ なら ح うる 呼 体 はれ ダオ提 のび制 理っ修はか順 4 C 案 る ル者 人て道 \* け応 と成し ティ 無る 敬人た性ろ と夫 女 者 1紙と結不で神かな 称 ٤ 読 6 ルーに婚在は 論 6 らしし 解 機平他しのイ 修 てて決ま 者 関和なた結エのマ道ど し法 to 紙をらこ婚スやド女こ まが は 1 守なとな様 るモにが うあ政 911112016 こアは よの る 府 U とせんくだ 7個のなだ結 0) そ女 6人だろ。婚でルマな

不では呼かたは一同のそっ

維 75 0) 5

2

7

サにド

LP

6

0

三の未みを

Ė

選维

0 U 人 0)

たし

W

U

n

るのよ

で知はをてぜ婚ののなっ氏で中っへに自も

人いて

\$

、ル者だだいた

使婦たたがで志わム

るけマ問そにが独い尾て

てドうれそ提身る変

でらてい人のは未ぼ的しに議

紹モ人のれ案を

令れ介アがマをし通けを

ミははすせいダやたすれつ

は二な年るルなムるの人どけ

実スお令のといま人はも他て

いわをか誰だくにて語

やな

い同りだ供た

ては

供には

人事の

意現夕

0 14

もをマ特

75 6 は

のれ才第れ

0

女 対モ

いるななダ老でにっ

女。いがム年ああたそ

女な認とのっな

る 折 30

ح 独 者

不だる

< E

若あらみマ

7

たフ年こ

U

を快が

特実 80 0)

10

鷾

#T

破事

す柄

達とそ

2 な 8

19

あく

げは

WI

シ米 ズ国 20 ミウ スー をマ年の 止ン12自 揚リ月 レブ号 ミ動 ルで ズは とこ W 0 う悩 敬み 称を が解 あ決 るす °る 訳の

曲

3

1]

-13 -

(江藤・編)

人紙(福岡県京都郡豊津町錦町三一二)瓢艘亭通信(一九七七年一月一〇日発行)前田俊彦個

びかけ。

「一位機に際して学生諸君にうったえる」という呼回の「危機に際して知識人にうったえる」につづいて、たちが真剣に取り組むべき課題が盛り込まれている。前にを見すえての「各人何をなすべきか」の提言には、私

『三里塚空港「廃港」要求宣言の会。の代表者である『三里塚空港「廃港」要求宣言の会。の代表者であるが、意欲的で巨大な学生集団をまえに大きな衝撃をうけ、あらためて「日本の革命運動に関して、ひろい意味でのおらためて「日本の革命運動に関して、ひろい意味での学生のはたす役割の何であるか」について深刻に考えたという。

放が革命である。そして著者は、人民が自己を奪還しつければならない。つまり、人民(革命の主役)の自己解ってうはいとられてきた自分自身をとりもどすことがなであり、それには、人民が長期にわたる搾取と抑圧によ者者によれば、「革命とは、権力体制の根底的な変革

ているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっていているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているかどうか、日本の革命の成否はそこにかかっているといえるのであります。」

によれば、それは、学生たちが「自分自身のたたかいをいる」こと指摘し、それが人民の斗争に重大な結果をもたらしているという。たとえば、水俣斗争の堕落現象、三里塚斗争の立腐れ現象、被差別人民解放連動の全体に三里塚斗争の立腐れ現象、被差別人民解放連動の全体に三まない。「たちおくれ」の原因はどこにあるのか。著者では、「たちおくれ」の原因はどこにあるのか。著者によれば、それは、学生たちが「自分自身のたたかいをここで著者は、脇役としての学生のはたらきが、「激ここで著者は、脇役としての学生のはたらきが、「激

本等としての強烈な思想斗争が必要」であるという。 斗争としての強烈な思想斗争が必要」であるという。 斗争としての強烈な思想斗争が必要」であるという。 ・な難」し、「ボランティヤー的難性活動家に転落していた。 ないたですりかえた「内ゲバ」など斗争の荒廃をうんでいる。 ことにすりかえた「内ゲバ」など斗争の荒廃をうんでいる。 そして著者は、「いかにしてではなく、なぜたたかうかがわれわれの問題」でなければならないことを強 おる」ことをうったえている。思想斗争の太いところである」ことをうったえている。思想斗争の荒廃をうんでいる。 がうかは理論の問題としての思想がよりかえされるだけで、自 が自身の問題としての思想斗争を放棄した日本の既成左 なば分裂に分裂をかさねている。「いまこそ自分自身の 半争としての強烈な思想斗争が必要」であるという。

主張であり、その意味では普遍性のある主張である。」はなく、「それぞれの具体的な斗争が普遍性を獲得していく過程」をいう。たとえば、福島潟斗争での、稲をうなければ銭になる財産をあたえるという権力者の指図に対する、ただ稲をうえたいから稲をうえるという権力者の指図に対する、ただ稲をうえたいから稲をうえるという権力者の指図に対する。したが、福島潟斗争とは、しかし、個人的な内面斗争をいうので思想斗争とは、しかし、個人的な内面斗争をいうので思想斗争とは、しかし、個人的な内面斗争をいうので思想斗争とは、しかし、個人的な内面斗争をいうので

そして、その普遍性は、百姓はいかにしてではなく、などたたかうかの追求からしか獲得できない。そして、さばたたかうかの追求からしか獲得できない。そして、さぜたたかうかの追求からしか獲得できない。そして、さばたたかうかの追求からしか獲得できない。そして、さらにこの普遍性は、百姓はいかにしてではなく、なるという原則なものがある。

の存在が必要」となり、「その協役のはたらきを可能にの存在が必要」となり、「その協役のはたらきを可能にの存在が必要」となり、「その協役のはたらきを可能にする条件は、協役が単なるボランティヤであることをやする条件は、協役が単なるボランティヤであることをやき位置づけるたたかいをもつとは、オルガナイザーとしてのたたかいとはどういうを位置づけるたたかいをもつとは、オルガナイザーとしてのたたかいとはどういうものか、長くなるが重要だと思うので著者の言葉をいくつか引用しておきたい。

ているさまざまな個別的、自然発生的な人民斗争に外部における真のオルガナイザーは、いたるところに噴出し鳴者の獲得につとめる人びとのことでした。しかし現代綱領ないしは政党的綱領のいわばセールスマンとして共綱 に これまでの通念としてのオルガナイザーとは、政党

By Shintaro Fagiwara

I have heard, those who were present at the meeting of International Oceanography in Tokyo a few years ago, were surprized at the wisdom of Japanese life. The reason is that we tress a fish in many ways of cooking, for example, we make from a cuttle fish, sliced raw fish (Sashimi), fish in vinegared miso (Sumiso-ae), fish with sea urchin (Uni-ae) fish boiled with soy (Teriyaki), fried fish (Menpura), hard boiled fish (Vitsuke). Sushi (vinegared fish with boiled rice), smoked fish, dried ou ttle fish (Surume), salted fish guts (Shio kara) and so on.

In Japan, there are many mountains, poor in plowed lands and thus it is hard to manage farming. Fish is very important resource of protein for the people. Put any foreigner do not understand it. I think it is quite unreasonable that those who serve meat of live stock prohibit us to catch a whale. Do they not culculate consumming grains for obtainning meat by a kilogram ? We ask the people over the world to understand that fish is indispensable to a Japanese rooted deeply in his food life.

Well. I have been angry at Pussia for her traditional advance into the south. So is Power Egoism of U.S.A. After all, they enforce us to admit the declaration of their own "nationalization of 200 sea miles" in the name of the state and the border. Is it possible this case can be brought to a peaceful settlement by a diplomat or a politician? No!

Let's appeal this problem to the public opinion through comrades of all parts of the world!

Despite difference of political system, the people of the world have cooperated in business of Red Cross Society, postal service, air service, sea rescue etc., then why any country has a right to surpress the other in her suste nance? We must reflect how many wars engaged in to deprive resources of others, and destruct egoism of the state or the race.

\*\*\*\*\*\*\*\*\*

OF KOREA

\*\*\*\*\*\*

the president has changed a part of the In south Korea Pak Constitution for his own interests to in power longer. Moreover in north Korea, KIM IL SUNG intends to appoint his son in his succesor, so it is reported by television recently. Is this the facts of "Public democracy"? We, Japanese who can not abolish the Tenno System are unable to laugh at them. Put why can't the mass deprived freedom brace themselves up against the authority?

い人たた人はえそ 民たた民 は ま 資 To ば な b B カンカンカン 2 本 ううた + T 7 b 7 ベベた義 6 2 3 は 5 老 者 7 n to カュ حک る 方言 る カンカン う で理 12 \$ 民か to ح 0 to O L 論 7 23 は を 3 2 \$ 36 は から 10 7 な あね を 15 10 7 0 L ts きら 2 え ぜ ば L ぜ いは 2 党 6 す 2 10 た 社 L 者 15 で からねぐ 5 あい た 会 主義 カンに X ばれ ح るう 2 な から 会る i 3 う す 2 た Da な 1) りかる 戦 ま を と者 がこはま術 す問 であ 民 7 6 す 2 n せ家 わす 0 1) わの人んはしないかく は別 2 あ 4 7 人的れ一民 かく 0 T カュ ι 民なわ点が ま \$ II T 5 12 綱人れでたたか 1) 思 3 民はあたがないい彼想 にれは領 まし ばその斗いりかっらかから的にて こ獲争かまうてぬににはにいよ

てく用 る務八村 0 杉 \$ な紙 記 面 木事か はら

7小杉

利人

父 島

N

2

T

12

T

民いた

主かめ

そう前 労働 研 12 1) 0 ことよ 究 者 あ 面 20 社 会のいお げ 12 ス T は など 会 -連て年 び革東帯 V ま 命 ラ 2 カン 京 来 三号 心区 V う 0 た 1+ を れと 2 ま 8 す だ 活 2 カン 0 6 30 不 動 3 す N 研 + 全 し自 台 4 月 面 究 分 T Ż. F + Ł には B 会者 だ き 的 E のとたな400 0 治 つ何 1 管 姿 4 いが 労 1 8 カン 勢 いう 働 406 発 T がへがか 者 前行 だ関連野)が紙動万発 一 新 0 あら 日連序 5 労 章わ働 十発 行 い本載 を がれて動ってつく 0 | 0 0 結祉の評いを1仲り年域

0 2 働

I

下

玉

 $\neg$ 

業

L

T IE

世

カン

ح

< 0

す

主がさ

W天伝身人都

だよく つ

まと

ん坊